

シラバス参照

科目名	地域連携 II
配当年次	1年次
開講期間	後期
単位数	2
担当教員	藤縄 善朗(フジナワ ヨシロウ)
期間・曜日・時限・教室	後期 火曜日 2時限 22-303

※	
授業の目的・目標	<p>1. 授業の概要 この授業はまちづくりに関わる演習の入門レベルです。実習(ケーススタディ)を通じて学生と地域の市民活動団体等との交流を図ることで地域を体感するとともに、課題解決に向けた方策を探ります。</p> <p>・オンライン授業の場合 オンライン授業ツールTeamsを用いたリアルタイムの授業を行います。自宅でオフィスソフトを用いて課題作成を行ってまいります。従って、自宅で自由に使えることのできるPC等(iPadなどのタブレットも可)を所持していることを推奨します。</p> <p>・対面授業の場合 大学の普通教室で授業を行い、必要に応じてまちづくりの現場に参加します。ただし、自宅での準備学習等のために、自宅で利用できるPC等を所持していることを推奨します。</p> <p>2. 授業の目的 地域の様々な現場に触れ人々との多様な交流を図ることで、学生が主体的に考え未来を切り開く力を身につけられるようにします。</p> <p>3. 学習成果 前に踏み出す力(さまざまな事にチャレンジする力)と協力する力(仲間や友人と一緒に目標に向かって協力する力)の獲得。</p> <p>4. 授業の到達目標 社会の多様性に配慮して主体的かつ協同的に実社会で貢献できる能力を身につけること。</p> <p>5. 実務経験と授業内容との関連 鶴ヶ島市長としての実務経験を踏まえて、周辺自治体の状況、地域のまちづくりの取組状況等を把握し、現場へ出向き様々な体験をします。</p>
準備学習等の指示	<p>講義初日に配布する講義スケジュールに基づいて、必要な予習をしてください。定期的にTeamsに課題をアップしますので、調べ学習を行ってください。</p> <p>また講義の都度配布する資料を復習に役立ててください。</p>
講義スケジュール	<p>1. 地域活動とは何か 公助・共助・互助・自助の概念を知るとともに、時代の要請に伴って変遷してきたそれらの必要性と可能性を理解できるようになる。</p> <p>2. 地域活動との連携① 互助の必要性と可能性を自然災害への対応の観点から理解できるようになる。</p> <p>3. 地域活動との連携② 互助の必要性と可能性を子育てと教育への対応の観点から理解できるようになる。</p> <p>4. 地域活動との連携③ 互助の必要性と可能性を超高齢社会への対応の観点から理解できるようになる。</p> <p>5. 地域活動との連携④ 地域コミュニティの再生に向けた取り組みを知りその必要性を理解できるようになる。</p> <p>6. 地域活動との連携⑤ 地域コミュニティの再生に向けた現場での取り組みを体感しその実情を理解できるようになる。</p> <p>7. 地域活動との連携⑥ 地域コミュニティの再生に向けた現場での取り組みを体感しその実情を理解できるようになる。</p> <p>8. 地域社会と国際交流の可能性① 在留外国人の増加によって生じる諸課題とその対応策を理解できるようになる。</p> <p>9. 地域社会と国際交流の可能性② 在留外国人の増加によって生じる諸課題とその対応策を理解できるようになる。</p> <p>10. 基礎的自治体の地域振興策について① 人口動態から坂戸市の総合計画を分析して、現状と課題、対策について理解できるようになる。</p> <p>11. 基礎的自治体の地域振興策について② 財政的な観点から坂戸市の総合計画を分析して、現状と課題、対策について理解できるようになる。</p> <p>12. 基礎的自治体の地域振興策について③ 観光の観点から坂戸市の総合計画を分析して、現状と課題、対策について理解できるようになる。</p> <p>13. 基礎的自治体の地域振興策について③ 地域公共交通の観点から坂戸市の総合計画を分析して、現状と課題、対策について理解できるようになる。</p> <p>14. 基礎的自治体の地域振興策について③ 災害への対応の観点から坂戸市の総合計画を分析して、現状と課題、対策について理解できるようになる。</p>

	15. 後期講義のまとめ
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業の場合 PowerPointの記載による ・対面授業の場合 プリントを配布する
参考文献	坂戸市総合振興計画 基本構想・後期基本計画
授業の方法	講義50% 演習30% 実習20%
成績評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 評価方法 発表、レポート、期末試験 レポートはTeamsの課題を使用して評価をフィードバックとして記す。期末テストでは評価をそれぞれ送付する。 2. 割合 30:30:40 3. 評価基準 それぞれ70%
オフィスアワー	年度初めに発表する
居室	13号館6階 13-619
ホームページ	
その他特記事項	<p>地域では様々な活動が展開されています。それらの意義や可能性を体感するために、後期はコミュニティーの再生や経済活動の展開等を学びに現場に出向きます。</p> <p>なお、欠席日数が4回を超えると単位の認定が難しくなります。欠席する場合には必ず前もって欠席届を提出してください。</p>
添付ファイル	